

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成31年 1月 7日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近所には公園が多く、季節の移り変わりを楽しめる良い環境にあります。また、国府宮神社に隣接しており、年間を通じて国府宮神社で行われる各行事に出かけている。特にはだか祭の際には施設を休憩所として提供し、はだか男と利用者がふれあい地域との交流を深めています。春はお花見、夏は盆踊り、秋には敬老会、冬にはクリスマス会を開き、四季のイベントを大事にすることで、より季節感のある生活を楽しんでいただけるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「アットホーム」で運営方針は「自分も入所したくなる介護」を目指している。文字通り利用者本位の介護に注力している。目標達成計画(平成30年1月)は5項目を掲げて一つひとつ丁寧に目標に向けて真摯に取り組んでいる。  
 昼食前は全員がゆっくりと嚙下体操を行っている。同様に複数の「早口言葉」を職員の巧みなリードに合わせて大きな声を出して行い機能維持に努めている。昼食は利用者と職員は会話をしながら一緒に取っている。職員は利用者の状態をよく把握している様子で、動作に無駄がなく丁寧でスムーズである。  
 近くにはだか祭で有名な尾張大國霊神社があり、祭り当日は大勢が立ち寄り利用者との触れ合う機会がある。玄関には満面笑顔の記念写真が掲げられている。評価当日は法人の代表が利用者として所謂「世間話」に興じ元気な声が響き渡っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づき、一人一人に合った生活リズムを重視した上での集団生活に心掛けている。	理念は「アットホーム」であり「自分も入所したくなる介護」目指している。玄関正面に掲示して職員は毎日目にしており、「利用者一人ひとりに合ったケアを目指しており、一回/二か月程度、会議で理念について取り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はだか祭では施設を休憩所として開放し、地域との交流の場を設けている。防災訓練では地域の協力を得て行っている。	町内会に入って班長を担っている。利用者は地域の老人会に加入しており行事案内が届く。老人会会長は運営推進会議に出席している。近所の方は気軽に声を掛けてくれたり、入居の打診があったり地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に利用者の状況を伝え、認知症への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括センター、区長、民生委員、家族代表、施設代表が参加し報告意見交換を行い、そこでの意見を職員で話し合いサービス向上に努めている。	運営推進会議は隔月第三火曜日に適切に行われている。市関係者、地域代表、知見者が出席して、行事、防災訓練、暑さ対策、インフルエンザ対策など課題について意見交換をしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	回覧板を配り、推進会議に市役所、区長、民生委員の方に出席を依頼し、実情、取り組みを報告し協力を得ている。	生活保護を受けている利用者が複数入所している関係で月に1回は市福祉課を訪問している。市及び地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席して状況を把握している。管理者は市福祉課に6年間在籍経験があり意志疎通は図れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りが少ない場合は玄関の施錠をせざるを得ないが、各居室、各階へは自由に出入りしている。	虐待や身体拘束廃止の研修は年1回、職員を指名して参加している。研修結果は職員が内容にを共有するために発表会をしている。玄関の出入り口は安全第一の観点で施錠しているがホーム内の移動は自由であり家族の同意も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、職員会議にて内容報告することで、虐待に繋がりそうな事柄について意見交換を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	聴力が弱い方、耳が不自由で、上手く意思疎通が出来ない利用者さんに対し職員が代わって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、家族の不安や疑問に答え、施設での生活の流れ等、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、日頃の様子をお伝えしてご家族からの意見要望を聞き運営に反映させるようにしている。	普段から来訪する家族は決まっているのが、意見は取り入れて運営している。年1回の家族会は食事会を兼ねて意見が出やすい様に配慮している。家族代表が運営推進会議に出席しており意見収集の機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一回の職員会議では、全員が発言し、常に何でも話が出来る様にしている。日頃から声掛け対話を交え、意見交換をしやすい人間関係作りをしている。	職員会議が1回/二か月開催されており偏りなく全員が発言できている。職員の離職率は低く長年の交流があり、良好な関係が構築されている。職員の希望を汲んで処遇改善に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握するため、管理者との話し合いの機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人一人を把握し、研修を受ける機会を作っている。資格取得やステップアップのための研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いにサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴しながら様子を観察したうえで、本人の安心を確保するため寄り添い要望を叶えられる様に努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、利用者の心身の状態や人柄を伺うと共に、家族からの不安や要望も聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、本人の要望を聞きADLの状態を把握してから、管理者、職員でカンファレンスを行い情報を共有し日々の支援方法について話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にしている。テレビを観て世間話をしたり、一緒に家事をして和やかな関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)でご本人の状況を知らせている。病院受診など、ご家族の協力が必要になる時もあり、不安のないよう随時連絡を取り信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店に出かけている。面会に来られるご家族や友人には来て頂けただけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。職員も面会者の顔、名前、関係を覚えるようにしている。	利用者の友人が来訪し、利用者と喫茶店に外出する方もいる。ホームでは訪問理美容があるが馴染みの美容院へ出掛ける利用者もいる。利用者ごとの馴染みがあり、一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりすぎないようにおやつ時間、レクリエーションで共に過ごす時間を作り、利用者同士で支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や、ご家族の必要に応じて相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動、表情を観察し穏やかな気持ちで接し、利用者の意向をくみ取れるように努力している。コンビニに買い物に出かけたり、外の空気を吸いに出たり、趣味の創作活動を行えるようにと希望に添うように努めている。	利用者の思いを読み取る様に努めている。干支のイノシシの絵に思いを託したり、七夕の短冊に願を書いたりしたものを参考にし利用者の意向を無理に聴き出す様なことはしていない。利用者の思いを尊重し支援に繋げている。	利用者の思いや意向を把握し介護計画に反映していくことが望ましい。そのための記録は重要であり適切な記録のための取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を作成し職員が共有できるようにしている、普段の会話の中で特に昔の話を大切に、今までの生活に近い暮らしをして頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを崩さないように食事、排泄、入床時間を気を付けている。手作り昼食の手伝い、洗濯畳み、食器拭き、食事の盛り付けを自発的にして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、問題点を話し合ったり、ご家族に対応の仕方などを聞いたりしている。ふと話された思いや希望をご家族にもお伝えしたり、職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。	モニタリングはモニタリング総括表を利用している。カンファレンスは3ヶ月に1回行っているが、入退院などがあつた場合は適宜行っている。ケアプランは3ヶ月ないし6ヶ月毎に見直している。	サービス担当者会議に限らず様々な情報を共有し、利用者や家族の意向や思いの反映を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送りや、生活記録を書き情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している。馴染の店への外出、誕生日会の外食や花見など利用者の状況に応じて柔軟にニーズに応えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際には地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、マジック、フラダンスを披露してもらい、楽しい時間が過ごせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医による往診が月に一度ある、今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけご家族の方に病院受診をお願いしている。	毎月協力医療機関の往診があり利用者の健康状態を把握している。また、訪問歯科診療制度を利用して制度採用医院と連携している。職員の中に看護師がおり病院への付き添いや週2回服薬についての対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の記録や申し送りノートへの記載による伝達や、必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時看護サマリーを送り、利用者の既往歴を知らせている。面会に行き利用者の情報把握に努めている。退院時はかかりつけ医の診療情報提供書を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書に署名をもらい生活の記録に保管している。	入所する時に「急変時の対応について」の同意書を得ている。但し、本人の意志表示が難しく、家族への連絡が付かない場合を想定したもので、通常は個別に相談をしている。急変時は救急搬送しており、今まで看取りをした実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に迅速に対応できるようにマニュアルを作成し、直ぐに見れる場所に置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行い、利用者が迅速に避難できるように地域の方の参加協力をお願いしている。	年2回防災訓練をしている。夜間想定は夜間体制を設定して行っている。運営推進会議では体制の説明をしたうえ終了後の意見交換会をしている。課題は改善に向けて取り組んでいる。地域への応援要請は区長に依頼することとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しき中にも礼儀ありを忘れずに敬意をこめた言葉使いや行動を心掛けている。	利用者は人生の先輩であり、常に失礼のない様に心掛けている。利用者への呼び掛けは一律とせず、本人が一番慣れ親しんでいる呼び名でしている。接遇の研修を受けた場合は職員会議で説明して職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほんにんの訴えがあれば可能な範囲で実現できるように支援している。簡単な選択肢を提示してそこから決めてもらうことで、自己決定できるように助けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション参加や散歩への誘いを断られた時は、利用者の希望を尊重する様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ出かけ髪を染めている方の支援をしています。月に一度メナードのフェイシャルマッサージを施術してもらい、いつまでも綺麗でいられるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ、手作り昼食では一緒に調理を行いより食事を楽しめるように支援している。	食事は利用者と職員と一緒に、食材の栄養価などを話題にしながら楽しんでいる。月に一度の手作り昼食は楽しみの一つとなっており、利用者は野菜を刻んだり、食器を拭いたり、箸を揃えたり出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。好みや咀嚼力に合わせて、補食の提供おかずの形態の変化を持たせる。毎食後、食事摂取量のチェックをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導、介助を行っている。	排泄パターンを見ながら、誘導、見守りなど利用者それぞれの状態に合わせて排泄支援をしている。声掛け誘導は時間軸ではなく、食事前、喫茶前などイベント毎にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をこまめに行っている。お茶以外にもポカリスエット、ジュースを提供し水分摂取量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、曜日や順番は希望に添うように配慮している。	入浴は利用者の体調に配慮している。シフトを組んで週3回を基本にして殆どの方が入浴している。湯船に浸らない、またシャワー浴の利用者もいるが、常に洗い場で見守り、安全に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度の管理、及び適切な寝具への交換を行っている。日中でも休息を訴える方は居室で休んでもらい、夜間は排泄パターンを基にトイレ誘導を行い、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は誤薬が無いよう名前、日付けを確認している。薬は飲み込むまで見守り、利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の気持ちを尊重しつつ、やりがいを感じる事が出来るお手伝いを頼んでいる。買い物、喫茶店、塗り絵など以前より楽しんでいた活動が継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は近所へ散歩に出かけているが、あじさい祭りなど地域の行事には職員と車で出かけ参加している。またご家族にも買い物や喫茶店への外出の協力をお願いしている。	季節に応じて近所に出掛けるよう努めている。初詣、矢合観音様参り、お花見、紫陽花祭り、祖父江銀杏祭りなどへの外出があり、る。買い物や喫茶店へも出掛けており、一人ひとりの要望は異なるが希望を叶えられるように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる、ご自分でお金を持つ事により安心感、自信を持っていただく、職員や家族と一緒に買い物へ出かけ好みのおやつを買いに出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる。三か月に一度担当者から家族の方に出す手紙にご本人のもメッセージを書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、季節ごとに利用者と共に作成した貼り絵などを飾り、明るい雰囲気を感じられる様にしている。	共有空間は整理、整頓、清潔に心がけ、職員が毎日清掃している。壁は節分やひな祭りなどの壁飾りで1ヶ月単位で飽きの来ない様に替えている。清掃も行き届いており、清潔に保たれている。	非常口付近の物の配置は、やや気になるものがあった。安全確保の観点から検討課題としたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の横の長椅子で外気浴をしたり、フロアのソファー、食堂等好きな場所に座って思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている。好みの物で部屋を飾り居心地よく過ごしてもらっている。	「アットホーム」の理念同様、利用者が長年慣れ親しんだ生活用品を持ち込んでいる。利用者が我が家と同様に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっている。フロア内には手すりが設置されており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。トイレは扉ではなくカーテンになっておりフロア中央から安全な様子を確認する事が出来る。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 2F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成31年 1月 7日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の近所には公園が多く、季節の移り変わりを楽しめる良い環境にあります。また、国府宮神社に隣接しており、年間を通じて国府宮神社で行われる各行事に出かけている。特にはだか祭の際には施設を休憩所として提供し、はだか男と利用者がふれあい地域との交流を深めています。春はお花見、夏は盆踊り、秋には敬老会、冬にはクリスマス会を開き、四季のイベントを大事にすることで、より季節感のある生活を楽しんでいただけるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づき、一人一人に合った生活リズムを重視した上で、集団生活に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はだか祭では施設を休憩所として開放し地域との交流の場を設けている。防災訓練では地域の協力を得て行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に利用者様の状況を伝え、認知症への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括センター、区長、民生委員、家族代表、施設代表が参加し報告意見交換を行い、そこでの意見を職員で話し合いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	回覧版を配り、推進会議に市役所、区長、民生委員の方へ出席を依頼し、実情、取り組みを報告し協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りが少ない場合は玄関の施錠をせざるを得ないが、各居室、各階へは自由に入出ししている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、職員会議にて内容報告することで、虐待に繋がりそうな事柄について意見交換を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	聴力が弱い方、耳が不自由で、上手く意思疎通ができない利用者さんに対し職員が代わって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項の説明書を読みながら説明している。家族の不安や疑問に答え、施設での生活の流れ等、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、日頃の様子をお伝えしてご家族からの意見要望を聞き運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に一回の職員会議では、全員が発言し、常に何でも話しが出来る様にしている。日頃から声かけ対話を交え、意見交換をしやすい人間関係作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握するため、管理者と話し合いの機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人一人を把握し、研修を受ける機会を作っている。資格取得やステップアップのための研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いのサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴しながら様子を観察したうえで、本人の安心を確保するため寄り添い要望を叶えられる様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、利用者の心身の状態や人柄を伺うとともに、家族からの不安や要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望、不安等を伺い、管理者、職員でカンファレンスを行い情報を共有し日々の支援方法について話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にしている。テレビを観て世間話をしたり、一緒に家事をして、和やかな関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)で、利用者の施設での生活をお知らせしている。病院受診など、ご家族の協力が必要になる時もあり、不安のないよう随時連絡を取り信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店に出かけている。面会に来られる家族や友人には来て頂いて安心される事を伝え、何度でも気軽に来て頂ける様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりすぎないように、おやつ時間、レクで同じフロアで過ごす中、利用者同士で支え合えるような関わりの支援を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方やご家族、お知り合いの方などの必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動、表情を観察し穏やかな気持ちで接し、利用者の意向をくみ取るように努めている。コンビニへ買い物に出かけ好みのおやつを購入したり、外の空気を吸いに出たり、趣味の創作活動を行えるようにと希望に添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報提供書を作成し職員が共有できる様にしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切に聞き、今までの生活に近い暮らしをして頂けるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活リズムを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている。手作りおやつ、手作り昼食のお手伝い洗濯たたみ、食器拭き、食事の盛り付けを自発的にして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで気づいた点があればすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングをし利用者の現状に変化した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録で情報を共有し、カンファレンスを行いそこで出た意見を基に介護計画に繁栄している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会の外食や、花見など利用者の状況に応じて柔軟にニーズに応えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と連携をとり、敬老会等の行事に参加できるように支援している。行事の際にはマジックのボランティア、フラダンスのボランティアの方に訪問してもらい楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医の往診がある。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に看護サマリーを渡し、利用者の既往歴を知らせている。面会に行き利用者の情報把握に努めている。退院時はかかりつけ医の診療情報提供書を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者、家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書に署名をもらい生活の記録に保管している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に迅速に対応できるようにマニュアルを作成し、直ぐに見れる場所に置いてあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行い、避難場所を地域の方の参加協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し人生の先輩として尊敬を持って接している、特に入浴、トイレ介助時は羞恥心の配慮を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の行事企画の際、利用者の思いや希望を取り入れながら企画実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、それ以外は利用者の要望に出来るだけ対応している。入浴日以外でも入浴可能な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々ネイルを施したり、月に一度メナードのフェイシャルマッサージを行いおしゃれ気分を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単なお来ずの盛り付けや、食器拭きをお願いしている。パン食を好む利用者には個別に対応している。月に1回、利用者と一緒に昼食を手作りしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1500ml以上の水分摂取が出来る様に、飲み物の種類を増やしたり、時間配分をしたりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助、見守りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人一人の時間に合わせ声掛け誘導を行いトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をこまめに行っている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。本人の希望に応じて入浴日の変更も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節、加湿に気を付けいつでも休息が取れる様に支援している。夏場は昼食後、昼寝の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れ、誤薬がないか注意を払い飲み込むまでを確認しその後も利用者の体調の変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好きな事、得意な事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。好みのおやつを食べて頂いている利用者もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日月に本人の希望に応じて外食の支援を行っている。天気の良い日は近くの神社へ散歩に出かけたりしています。あじさい祭り、ぎんなん祭りなど地域の行事にも参加している。ご家族の方にも喫茶店などの外出をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。コンビニや散歩に出かけた先で買い物が出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかける事が出来る様にしている。手紙のやり取りが継続する様に、レクリエーションの時間に文字や文章を書く練習を取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に季節感を感じられる飾りをしたり、クリスマスにはクリスマスツリーと一緒に飾ったりして季節感を感じられるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き気の合った利用者同士が談笑出来るようにしている。テーブルでは共同作業を行ったりしている。食堂で新聞を読んでいる方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ってきて頂くなどして居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所など安全かつ自立した生活が送れるようになっていく。トイレの一部がカーテンの扉になっており、フロア中心から安全を確認する事が出来る様に工夫してある。		